中学部の実践

研究授業より

総合的な学習の時間　共生社会の実現に向けて

「高齢者疑似体験」

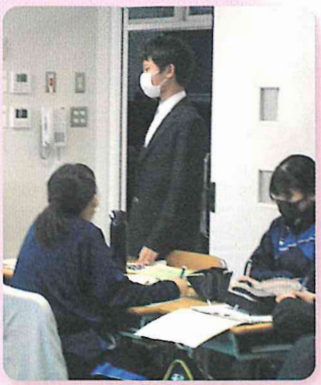
導入では…

体験の前に、高齢者・視覚障がい者・聴覚障がい者・車椅子の人について小学校や道徳の授業で学んだことを復習し、高齢者が家の中での生活や、外へ出かける時に困っていると思うことを積極的に発表しました。

実感できる教具の活用

おもり入りのベストを着て、手首おもりと足首おもり、肘サポーターと膝サポーターを付けました。さらに腰を曲げた位置にベルトで固定し、見えにくいゴーグルと聞こえにくいイヤーマフを付け、廊下や階段を歩く体験と、高齢体験者を介助する体験を行いました。班で協力して、体験道具の装着を手伝い、歩きにくそうな体験者を優しく介助しました。

体験の振り返りや感想を共有



体験後「腰の痛みや周りが見えづらいことが大変だった。」「介助する時に気配りが大変だった。」「介助してもらった時しっかりサポートしてくれてうれしかった。」「相手を思いやる気持ちが必要だと思った。」「街中で高齢者に声を掛け手助けしたいと思う。」など振り返りを発表し、クラスで共有しました。

日常の取組より

昨年度は特別支援学級が併設されることを見据え、全学年で知的・発達障害の人たちの気持ちや行動を共有できるアクティビティーを行いました。今年度も実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、残念ながら中止としました。